

東白の松風

公立学校退職校長会東白川支部
発行責任者 下重康仁
◆創刊 平成2年8月1日

「ご挨拶」

支部長 下重康仁



長引いたコロナ禍でしたが、令和5年度を迎え、会員の皆様にはますますご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

令和4年度は、東白川支部として、継続した事業もあれば、計画したものの実施できなかった事業もありました。担当の会員をはじめ役員一同で、事業に参加する会員の安心・安全を最優先に考え、どう対応しようかと苦勞してまいりました。

しかし、今年度は、新型コロナ・ウイルスの感染状況が落ち着いてきており第5類に格下げになりました。そのため、総会で承認された事業については、『できることは、なんでもする』を肝に銘じて、ひとつひとつ丁寧に取り組んでいきたいと考えております。



最後になりますが、コロナ禍後は、体の免疫力の低下が危惧されております。会員の皆様が健康第一でお過ごしになりますようご祈念申し上げ、挨拶といたします。

令和5年度総会を開催

4月15日（土）に、新富家会館において26名の会員の出席のもとに行われました。支部長挨拶のあと、4名の新入会員の紹介と当日出席された2名の新入会員の挨拶がありました。今年度は、県公立学校退職校長会が、4年ぶりに開催されることや研修旅行も実施する方向で計画されるなど、これまで中止されていた事業が久々に復活できそうな明るい話題もありました。総会后、クラブ打合せがあり、会場を移して「茶話会」が行われました。コロナ前は、「懇親会」を行っていましたが、お酒を伴わない「茶話会」として実施されました。短い時間でしたが、お茶とお菓子で和気あいあいと語り合うことができました。



<総会での協議の様子>



<新入会員の挨拶>



<クラブごとの打合せ>



<茶話会の様子>

~~~~<新入会員紹介>~~~~

【小さな家庭菜園を見ながら】

伊藤 弘行



令和5年3月31日をもちまして、38年間の教員生活を定年退職いたしました。東白川郡内では、東館小学校、鮫川小学校、塙小学校、内川小学校、山岡小学校、矢祭小学校に勤めさせていただきました。その間、素晴らしい子どもたちと出会うことができ、また先生方と楽しく仕事できたこと、本当に幸せ者だと今しみじみと感じています。

また、この度は退職校長会東白川支部に入会させていただきました。総会では、これまでお世話になった多くの先輩方に温かく迎えていただき、嬉しかったです。退職校長会では、園芸クラブに所属させていただき、生方先生にご指導いただきながら、野菜作りを楽しんでおります。トマトもナスもピーマンも、すくすくと生長しています。その様子を観察するのが毎日の日課になっています。

22歳で教職に就いた時に、自分自身とこんな約束をしました。「60歳の定年までは、一生懸命に仕事を頑張る。そのかわり、退職したら自分の心のままに、やりたいことをやって生きていこう。」現在は、その約束を実行しています。先日、テレビで100歳のおじいさんが山の急斜面を上り下りしながら元気に野菜作りをしている番組を観ました。理想的な年齢の重ね方だと感動しました。私も健康長寿を目指していろいろなことに挑戦していきたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。



【『縁』を感じて】

鈴木 雅人



昨年度末、棚倉町立棚倉小学校を最後に定年退職いたしました鈴木雅人です。今年度より退職校長会会員となりました。どうぞよろしくお願いいたします。

定年退職とは、「人生の一区切り」という思いをもちながら令和5年3月31日を迎えました。4月1日より、棚倉町立近津小学校で再任用校長として勤務させていただいており、「定年退職はしたけれど・・・」の思いであります。というのも、再任用とはいえ現職同様の仕事内容であり、まったく一区切り感が無いのが現状なのです。定年退職した記憶はとうに薄れ、目の前の学校経営課題に立ち向かっている日々です。

定年退職を経験し校長職12年目を迎えた今、感じることは、「人との縁」のありがたさです。人との縁は、自己のキャリア形成に大きな影響を及ぼしていると私は思います。縁あって職場を共にした皆様、縁あって友情を育んだ友達、縁あって愛を育んだ妻（笑）等々、縁あって関わった方々から得たことは、多かれ少なかれ自分のキャリア形成に影響を与えていると思っています。だからこそ、縁を結んだ皆様に感謝したいと思っています。退職校長会での縁も大事にしながら、これからも縁を大事にしながら生きていきたいと思っています。

「退職後の充実した人生のために」

嘉 成 靖



この度は、退職公校長会東白川支部に入会させていただきありがとうございます。また、在職中は、皆様方からご指導ご助言をいただきましたことに感謝申し上げます。

私が、柵倉小学校での教頭時代、退職校長会の充実した活動の様子を垣間見る出来事がありました。それは、退職校長会の皆様に放課後の個別指導をしていただいていた時の事、お休みいただいた校長室で、皆様が楽しそうに退職校長会のクラブ活動の様子やご自身の趣味の事を生き生きと話されていました。同席させていただいた私自身も楽しい気持ちになりました。このような東白川支部に入会できたことを大変うれしく思います。

私事になりますが、4月1日に専門学校に入学しました。残りの人生を人の役に立つことをしようと考え、国家資格の取得を決断しました。毎日、下は18歳から20代、30代の若者と一緒に学んでいます。解剖学や生理学、経絡経穴等々、今までの人生の中で学ぶ機会がなかった学習内容に戸惑いながらも、お互いに教え教えられながらも勉強中心の贅沢な時間を過ごしています。3年後！？国家資格を取得できた折には、鍼灸師として皆様のお役に立てるかと思えます。

退職校長会の一員として、少しでもお手伝いしたいとは思いますが、今はこのような状況です。勝手に言って誠に申し訳ありませんが、今後共どうぞよろしくお願いいたします。



「これからのミッション」

深 谷 昇 司



この度、退職校長会の仲間入りをさせていただき、誠にありがとうございます。会員名簿には恩師の皆さまのお名前も拝見でき、今後直接お会いできることを心待ちにしております。

さて、三月の離任式は教職最後の大舞台であり、校長としての最後のあいさつの場でした。全校生や教職員へ何を伝えたらよいか悩みましたが、結局「教員は素晴らしい職業であること。ぜひ一人でも多く教員を目指してほしい。」でした。教員の労働実態を巡っては「教員はブラック」や教員調整額はあるものの残業代なしの「定額働かせ放題」などと揶揄されることもあり、働き方改革が急務です。このような情報に接している生徒たちのなりたい職業に「教員」があがるのが年々減少しており、教員採用試験の受験者数も同様であるという悲しい現状があります。さらに、地元出身教員が実に少なく、他地区の教員、特に経験年数の浅い初任者らによって教育が施されています。また講師不足も深刻です。これらを切実かつ喫緊の課題として捉えております。

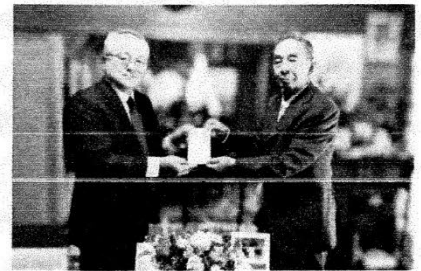
現在、鮫川村教育委員会というすばらしい職場で同僚にも恵まれ、日々楽しく仕事をさせていただいております。自分に与えられたこの場所で、「教員を志す生徒を増やす」というミッションを自分に課し、活動していきたいと思えます。会員の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

祝 受章 春の叙勲「瑞宝双光章」 藤田 充 先生

この度、藤田充先生が春の叙勲において、「瑞宝双光章」を受章されました。受章式は、5月中旬に国立劇場を会場に行われ、天皇陛下への拝謁も厳かに行われました。その後の写真撮影が思いのほか時間がかかり、帰りの新幹線の時間がとても気になったことを時折ユーモアを交えながらお話になりました。

藤田先生は、教育行政（本庁、教育センター）勤務が16年4か月の長きにわたり、特に本庁に2度勤務されました。高城小学校長からの2度目の勤務時には、引き継ぎらしいことはなく、6箱にもおよぶ資料を与えられただけで不安だったこと。幸いパソコンが得意だったので、学級編成等担当の資料を数か月かけてデータベース化したことを懐かしそうにお話になりました。それでも毎日が多忙を極め、帰りはいつも最終電車だったり、土日には車で福島まで行って仕事をしたりという毎日だったと話されていました。30人学級導入時には、無理がたたって頸椎を痛められたこともあったそうです。

先生は、現在の教員不足を憂え、30人学級が今後も維持できるのか、心配の種は尽きない様子でした。県の教育次長まで務められた藤田先生。穏やかな語り口の中にも、多くのご苦勞を垣間見たひとときでした。これからは、長い教育行政で培った経験を、本支部のために注いでいただきますようお願いいたします。この度の受章、誠におめでとうございました。



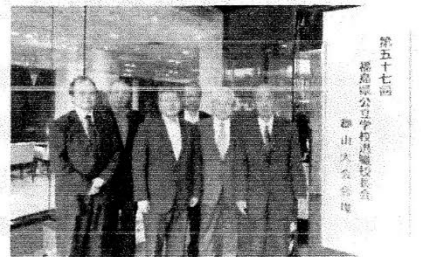
「第57回県公立学校退職校長会郡山大会」に参加して 永山 陽一

6月14日(水)に郡山市「郡山ビューホテルアネックス 花勝見」において第57回県立公立学校退職校長会が開催され、東白川支部からは下重支部長をはじめ6名が参加しました。

開会式の中で、福士寛樹会長から、コロナの影響で大会を開催することができず、今回4年ぶりに開催された大会であることが話されました。大会を運営する役員の方々の様子からも、4年ぶりの県大会を充実したものにしたという意気込みが伝わってきました。会場内では、久しぶりに会い、談笑し合う旧知の方々の輪がいくつもできていました。

講演は、『近代日本の礎 安積良斎（ごんさい）』という演題で、安積国造神社 宮司安藤智重様からお話がありました。安積良斎は郡山の宮司の家に生まれ、その後江戸に上り、儒学者として名を上げ、昌平坂学問所教授となり、江戸時代後期から明治の初期に活躍した方安積良斎について、安積疎水以前から郡山は発展していたということについてお話がありました。

体験発表は、福島、南会津、相馬の3支部からあり、福島支部、南会津支部の発表者は、東白川で勤務された先生方で懐かしく、しかもお元気で活躍している様子が発表から感じることができました。次回開催地区の安達支部からあいさつがあり、無事閉会となりました。



編集後記

多くの皆様にご協力をいただき、今年度第1号の広報を発行することができました。今後もより充実した紙面づくりに努めていきたいと思えます。よろしく願いいたします。

(西牧・吉田)